



内村コースケ 写真展  
3本脚で駆けた元アイメイト(盲導犬)の物語  
リタイア犬日記

2025年10/26(日)～11/3(月・祝) 駅営業時間内入場可 / 入場無料  
しなの鉄道・中軽井沢駅構内 軽井沢町地域交流施設「くっかけテラス」

「リタイア犬」とは、アイメイト(盲導犬)を引退して奉仕家庭に引き取られた犬たちのことです。本写真展の主人公「マルコ」は、そんなリタイア犬の一头です。10歳でアイメイトとしての役目を終え、2019年9月から2023年10月に亡くなるまで、我が家で家庭犬として過ごしました。最初の出会いでマルコの優しい瞳を見た瞬間、私は写真家として、シャッターを切らずにはいられませんでした。以来、マルコと過ごした4年間の日々を、毎日欠かさず、日記のように写真に収めました。その集大成が本写真展です。

リタイア犬としての日々の後半、マルコは病気で脚を1本失いました。それでも奇跡的な生命力で、我が家がある信州の高原(茅野市・ハケ岳山麓の山荘および御代田町・浅間山麓の自宅)を3本の脚で駆け回りました。底しれず優しく、そして強い犬でした。そんなマルコが私たち夫婦に寄せてくれた愛は、広く普遍的な愛でもありました。

本写真展に先立って、この「リタイア犬日記」を写真絵本形式でまとめた作品が、大空出版「第5回日本写真絵本大賞」で、毎日小学生新聞賞をいただきました。また、本写真展は東京・銀座の「ソニーイメージングギャラリー」(2024年10月)に続く開催となり、本年11月7～13日には長野県伊那市の「かんてんばばホール」でも開催されます。マルコの生き様が認められたのだと、大変嬉しく、飼い主として誇らしく思います。

内村コースケ プロフィール

1970年ビルマ(現ミャンマー)生まれ、東京育ち。外交官の父の転勤で少年時代をオタワ(カナダ)、ロンドンでも暮らす。早稲田大学第一文学部卒。中日新聞社に記者職で入り、カメラマン職に転身した後、東京新聞写真部でアフガン紛争の撮影・取材を経験。2005年よりフリーとなり、写真撮影と記事執筆の両方をこなす。そのころから犬を飼い始め、犬の撮影を得意分野の一つとする。愛犬雑誌での写真・記事の掲載多数。2011年に愛犬とともに長野県・ハケ岳山麓に移住(2022年より同県浅間山麓に定住)。アイメイトの撮影・取材などを通じた「人と動物の絆」がライフワーク。日本写真家協会(JPS)正会員。